

# 感染症対策について

災害が発生した場合の避難所では、密閉した空間の中での集団生活等により新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザや風邪等の感染症のリスクが高まる恐れがあります。少しでも感染リスクを軽減するために次のことについて、地震や風水害発生時の避難に備えて平時から準備をお願いします。

## 避難者の健康状態の確認

避難者の健康状態を確認するため、避難所に入られる際は、ご自宅での体温測定にご協力願います。なお、発熱、咳などの症状がある方は、かかりつけ医に相談し、可能であれば旅館やホテル等での避難も検討してください。

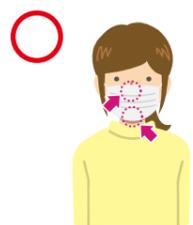
## 親戚や知人の家、ホテル、旅館などへの避難の検討

避難時に、避難所が過密状態になることを防ぐために、可能な場合は親戚や知人の家、ホテル、旅館などへ避難することを検討しておいてください。

## 手洗い、咳エチケット等の基本的な対策の徹底

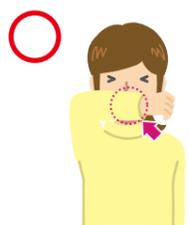
避難者は頻りに手洗いをするとともに、咳エチケット等の基本的な感染症対策を徹底しましょう。他の人と2m以上離れ、会話も必要最小限にしましょう。

マスクがない時

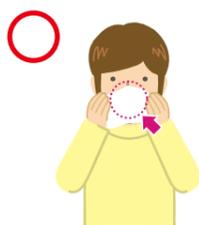


マスクを着用する  
(口・鼻を覆う)

とっさの時



袖で口・鼻を覆う

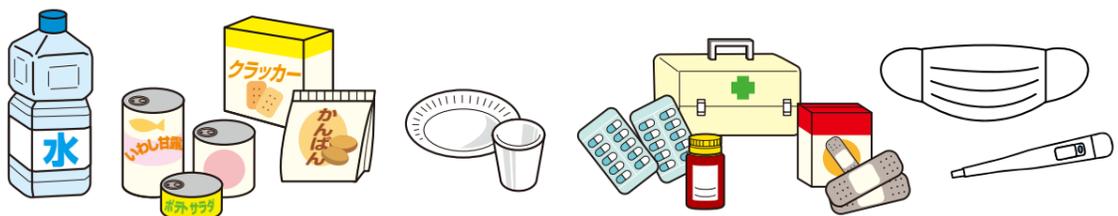


ティッシュ・ハンカチで  
口・鼻を覆う

## 避難所の衛生環境の確保

避難者が共有する物品やスペースは定期的に、家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整えましょう。

なお、避難所の備蓄品には限りがあります。水や食料品などに加え、自身の健康状態を確認するために体温計を持参するなど、可能な限り必要なものは持参してください。



# 災害時要配慮者の安全のために&自主防災組織

## 援助が必要な人がいたら

### 高齢者や病気の方

お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。みなさんと協力して避難しましょう。



### 耳の不自由な方

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。



### 目の不自由な方

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらい、ゆっくりした速度で半歩前を歩きましょう。



### 体の不自由な方

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で！昇る時は、前向きに、降りる時は後ろ向きにします。



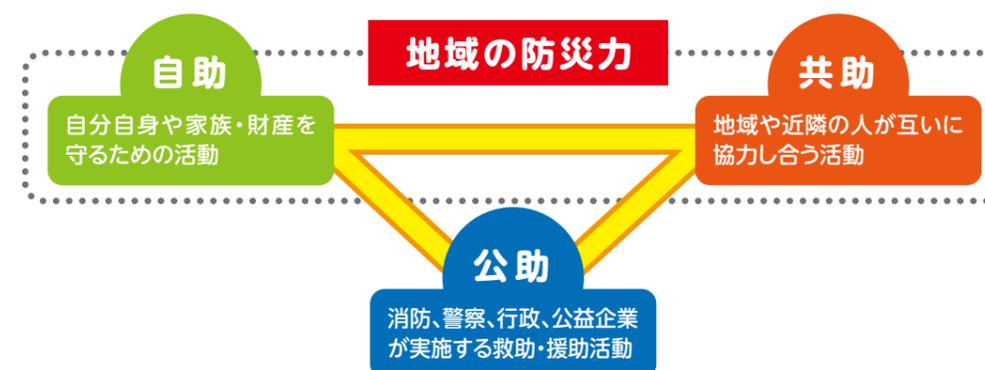
## 自主防災組織〈地域の防災力〉

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？

みんなで助け合いながら、災害を乗り切ろう！



### 自主防災組織とは？

●災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。

●平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



### なぜ、自主防災組織が必要なの？

●大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。

●このような時、地域の皆さんが一緒になって協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見え関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。

●より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（=体制づくり）が重要です。